

ORQUESTA DE VALENCIA バレンシア管弦楽団

アレクサンダー・
リープライヒ
(指揮)

©Matthias Ziegler

ケヴィン・チェン
(ピアノ)

©Tat Keng Tey

黄金の陽光に包まれた地中海の輝く港町バレンシアより 歴史と伝統を受け継ぐオーケストラが来日 ショパン国際コンクール第2位の超逸材との共演も

年間300日以上も晴れるという最上の気候と美しい地中海のビーチを持ち、情熱の象徴「火祭り」の都でもあるバレンシア。その都の魅力を凝縮したようなオーケストラ、バレンシア管弦楽団が待望の来日を果たす。しかも今世界でもっとも注目を集めるピアニスト、ショパン国際コンクール2025第2位のケヴィン・チェンを伴っての登場だ。

演目にも気が利いている。まず横浜ではマルティン・イ・ソレルの秘曲から始まるが、ソレルは18世紀に活躍したバレンシア出身の作曲家だ。そしてケヴィン・チェンは先日行われたショパン国際コンクール入賞者ガラではショパンのピアノ協奏曲第1番を演奏していたが、今回は第2番を用意。ファン垂涎の演目といったところであろう。そしてスペイン最大の作曲家ファ

リャの名作と続き、最後はフランス人ながらスペインにルーツを持つラヴェルのボレロで締めくく、文句なしの選曲だ。

対して東京では、芸術監督リープライヒの母国ドイツの天才リヒャルト・シュトラウスから。そしてケヴィン・チェンはここでファリャ:スペインの庭の夜をチョイス。スペインのオーケストラとの共演だからこそそのスペシャルな選曲である。後半は地中海をイメージしたとされる壮大なドビュッシー:海、そして最後はやはりラヴェル:ボレロと、こちらもバレンシア管弦楽団ならではのプログラミングと言えるだろう。

魅惑の都市バレンシアの魂に触れるまたとないこの機会、存分に堪能したい。

●Profile

アレクサンダー・リープライヒ(指揮) Alexander Liebreich, Conductor

ドイツのレーゲンスブルク生まれ。ミュンヘン音楽演劇大学とザルツブルク・モーツァルテウムにて学び、クラウディオ・アバドとミハエル・ギーレン両氏の薫陶を受けた。ロイヤル・コンセルトヘボウ管、BBC響、ベルリン放送響、ミュンヘン・フィル、バイエルン放送響、ドレスデン・フィル、チューリッヒ・トーンハレ管、ブルノ国立フィル、ワルシャワ国立フィル、マラー・チェンバー管、オレゴン響、シンガポール響など世界各国のオーケストラへ客演を重ね、リサ・バティアシヴィリ、クリスチャン・ツィメルマン、フランク・ペーター・ツィンマーマン、ゴティエ・カプソン、アルバン・ゲアハルト、リーラ・ジョセフォヴィッツ、イザベル・ファウスト等、世界的なソリスト達と共演している。

加えて革新的なプロジェクトもプロデュース、2002年にはユンゲ・ドイチェ・フィルと共に北朝鮮と韓国を訪問、2011年には韓国のトンヨン国際音楽祭の音楽監督にヨーロッパ人として初めて就任、異文化交流を目的とした「イースト・ウェスト・レジデンス・プログラム」を実現、韓国にハイナ・ゲッペルス、ウンスク・チン、マルティン・グルビンガー、細川俊夫、ベアート・ワラー等の作曲家の招聘を実現。これまでミュンヘン室内管弦楽団芸術監督兼首席指揮者、トンヨン国際音楽祭音楽監督、ポーランド国立放送交響楽団首席指揮者兼芸術監督、プラハ放送交響楽団首席指揮者、リヒャルト・シュトラウス音楽祭芸術監督を歴任。シマフスキとルトスワフスキの作品集をはじめ、ハイドン、モーツァルト、イサン・ユン、細川俊夫まで幅広いレパートリーのレコーディングをAccentus、ECM、ドイツ・グラモフォン、SONYへ残しており、いずれも国際的に高い評価を得ている。2016年にはバイエルン州政府から文化賞特別賞を受賞。

現在、スペインのバレンシア管弦楽団の首席指揮者兼芸術監督、台北市立交響楽団の首席指揮者。

ケヴィン・チェン(ピアノ) Kevin Chen, Piano

カナダのエドモントン生まれ。8歳でカナダ音楽コンクール優勝を果たし早くから全国的な注目を集めた。詩的な感性、自然な雄弁さ、そして目を見張る技術で称賛され、同世代でも独自の存在としてたちまち頭角を現し、フランク・リスト国際コンクール、ジュネーヴ国際コンクール、ルービンシュタイン国際コンクールなどで優勝。2025年にはショパン国際コンクールで第2位を受賞し、ポーランドの批評家からは「技巧の誇示ではなく、完全なる音楽の物語」と評された。

これまで、ワルシャワ・フィル、スイス・ロマンダ管、台北響、ハンガリー国立管などのオーケストラと共演。またラ・ロック・ダンテロン国際音楽祭、「ショパンと彼のヨーロッパ」音楽祭、ドウニキ国際音楽祭などの音楽祭に招かれ、カーネギーホール、ベルリン・フィルハーモニー、ミュンヘン・プリンツレーゲンテン劇場、セント・ジョーンズ・スミス・スクエア、台北国立コンサートホールなど主要な演奏会場で演奏している。

現在はハノーファー音楽演劇大学でA.ヴァルディ教授に師事。

バレンシア管弦楽団 ORQUESTA DE VALENCIA

1943年に創設されたバレンシア管弦楽団は、80年以上にわたり、スペイン有数の歴史と伝統を誇るオーケストラとして歩みを重ねてきた。1950年のフランス、イギリス公演を皮切りに、著名なソリストとともに、ヨーロッパ各国への演奏旅行や、国際音楽祭への出演を重ね、近年もパリやウィーンをはじめとする海外での演奏活動を積極的に展開している。これまでにロストロポーヴィチ、クレメル、マイスキー、バレンボイムら世界的ソリストと共演し、チェリビダッケ、メータ、シャイーをはじめとする著名な指揮者を客演に迎えてきた。歴代の首席指揮者には、ホセ・イトゥルビやゴメス＝マルティネスらが名を連ね、2022/23シーズンよりアレクサンダー・リープライヒが首席指揮者兼芸術監督を務めている。近年は、録音プロジェクトや海外公演に加え、作曲家・アーティストのレジデンス制度を通じた創造的な活動にも積極的に取り組み、伝統を礎に新たな音楽文化を発信し続けている。